

一般質問

(平成20年第3回定例区議会)

(要旨)

ネットワーク

中村 つねお

仮説である二酸化炭素原因説を振り回すと、食糧危機を招くことになる。慎重に対応する必要はないか。

問 環境問題について、区は二酸化炭素削減等に積極的な姿勢を示している。そこで①地球温暖化の原因が二酸化炭素であるとするならば、なぜ石油や石炭の採掘を止めようという声を上げないのか②今後、気温が2度ぐらい上昇すると想定されている。本区での、具体的被害予想と、それらの科学的根拠とは何か③低炭素社会を目指すことは、効率のよいエネルギーを放棄し、経済活動の抑制に努力することか④区は環境と経済活動の両立を目指すとしているが、必然的に原子力発電増設に向かおうとしているのか⑤二酸化炭素削減論が招く食糧危機に関して、区はどのように認識しているのか。

答 ①化石燃料は採掘を止めるのではなく、環境に配慮し効率的に利用することが望ましい②具体的な被害想定はないが、集中豪雨による浸水被害の増加等が懸念される③区の温暖化対策基本方針に、環境と経済活動の両立があり、この取り組みを経済活性化につなげる創意工夫が重要である④京都議定書目標達成計画でも重要な位置付けである。今後、国のエネルギー政策の中で示される内容を見て判断する⑤原油高騰に伴う、バイオディーゼルの生産拡大で、穀物価格が上昇し、貧困層から食料が奪われるとの説もある。二酸化炭素の削減が食糧危機に結びつかないようにすることが重要であると認識している。

ちよだの声―2

小枝 すみ子

史跡江戸城外堀跡保存管理計画について

問 江戸城外堀完成40年に向けて、観光や景観面からも重要な管理計画が、千代田区、港区、新宿区の3区共同で策定された。そこで①計画の進行を管理する区の担当組織はどこか②専門家を含めた推進会議の設置や条例化はしないのか③都市計画による規制誘導は行うのか④記念シンポジウム等を開催しては

どうか⑤案内表示を整備してはどうか。

答 ①区民生活部図書・文化資源担当が実施する②必要に応じて論議していく③都市計画手法等を活用して、法的なルール形成を検討していく④3区の共催イベントを開催する⑤3区で様式を統一した案内板を設置する。

千代田区男女平等行政20年の到達点と今後について

問 これまで男女平等行政に取り組んできた本区の歩みを、区長はどう評価しているのか。また、今後に向けて①父親の育児休暇を推奨するパパ・クオータ制の実施②外国人女性の相談に対し、さまざまな言語で対応出来る体制の整備③子育て中の女性向けに、男女平等教育の実施④学校教育における男女平等教育のさらなる充実について問う。

答 中小企業向けに、仕事と育児の支援助成等、共同参画の象徴となる事業を進めてきた。今後は、男女共同参画センターを通じて、真の共同参画に取り組み①今後の検討課題としていく②当面は、事前予約による通訳を介し相談を受ける③親育ち支援講座を実施④適正な人権教育を推進していく。



ちよだの声

小林 たかや

公共施設の安全性と管理責任について

問 ①指定管理者や委託業者に対し、契約内容の確認や履行状況の把握、監視は誰が行うのか②下請けへの丸投げや一部の業務を再委託した場合、誰がどのようにチェックし実態を把握しているのか。

答 ①委託業務の履行状況は、施設管理者等が随時現場を確認する②業務の一部を再

委託する場合は、区に対する協議を義務付け、「丸投げ」の防止に努めている。

公共施設建設時の安全設計の考え方と安全管理、施設の使い勝手のつくり込みについて

問 麹町中学校等の新施設を建設する際の安全設計に対する考え方と、施設の使い勝手についてどのように織りこみ、進めるのか。また、公共施設の安全は確保されているのか。

答 基本設計時及び実施設計時等に関係者と十分な検討を行い、安全管理の考え方が施設管理者へ継続的かつ正確に引き継がれるようにしていく。調査結果では、緊急な改修が必要なものは無く、安全は確保されている。

区の広報について

問 ①広報紙の掲載基準は何か②インデックス化等の工夫は③広報紙とHPや携帯電話iモードとの連携について区の考えを問う。

答 ①広報紙発行規定により掲載事項等を定め、幹部連絡会で決定している②インデックス化を含め、より一層わかりやすい紙面づくりに努めていく③広報紙へのQRコード等、わかりやすい掲載方法を検討していく。

ちよだの声

寺沢 文子

廃プラスチックを燃やすことについて

問 本年10月から、汚れたプラスチック等をサーマルリサイクル（焼却で発生する熱エネルギーを回収・利用する）として、可燃ごみと一緒に収集、焼却する仕組みが始まる①分別意識の低下と発生抑制に逆行しないのか。また、拡大生産者責任を問い、生産者等に負担を求める仕組みにすべき②煤塵や有害物で健康に影響はないのか③埋め立て処分場の延命は、土砂等の廃棄抑制が先ではないのか④廃プラ混入率のバラつき等、焼却が抱える疑問に根本から向き合うべきではないのか。

答 ①徹底した減量努力の後、資源化出来る。区民等の分別意識向上を進めていきたい。拡大生産者責任の観点から23区として論議したい②第三者機関による実証確認で安全焼却

が報告されている③産業廃棄物や建設残土等全ての減量が必要である④「みらいくる会議」や説明会等での意見を踏まえ導入しているため、改めて論議する場を設ける考えはない。

ごみ（特に生ごみ）は循環型にして、資源として、有効活用すべきではないか

問 ①公共施設の壁面緑化や区民農園を設置し、家庭の生ごみを肥料化して利用するなど、住民参加を求めるとき②公共施設から出る生ごみを活用すべき③戸田市に学ばりサイクルと緑の連携等について考えを問う。

答 ①品質が一定しないため、肥料に活用は困難②区立学校等の生ごみの堆肥化は活用済み③情報収集に努め検討課題とする。



自由民主党議員団

はやお 恭一

在宅介護の医療ニーズの充実に向けて

問 本区における高齢化率及び中重度要介護者数（要介護3〜5）が増加する一方で、在宅介護や施設介護が円滑に進みづらい現状について、次の質問をする①医療ニーズを有する在宅療養者への、介護と医療の連携の推進に対する対策は②特養の待機者における医療ニーズの増加・退院後の受け入れ場所・在宅介護継続のための介護者の負担軽減策等、それらに対応する機能としての老健が区内に存在しないことを、どう捉えているのか。

答 ①（仮称）高齢者総合サポートセンターに、医療と介護を連携出来る在宅ケア拠点を整備する。当面は既存の関係機関の連携を検討する②療養病床再編や退院後のリハビ